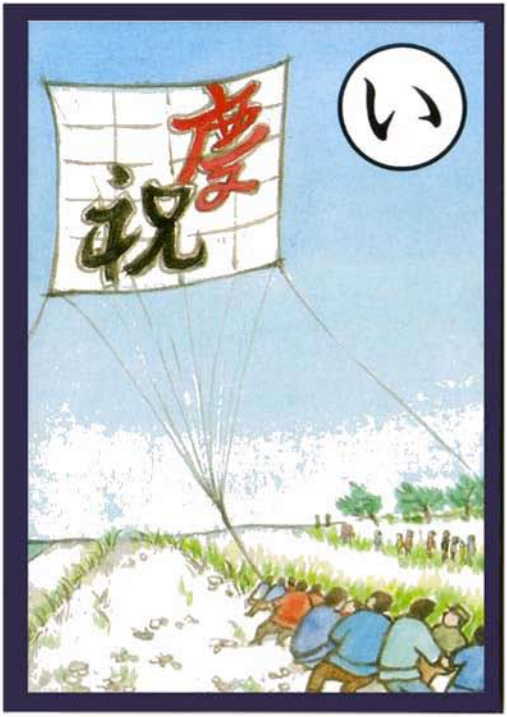

い いさましい
座間の大凧
日本一

い

座間の大凧

毎年五月五日（端午の節句）には、相模川河原で大凧保存会の人たちによって大凧あげが行われます。この大凧あげは、市内では今から約百六十年ほど前の江戸時代の終わりごろからはじめられたといわれていて、青年たちが中心となり村中の人たちみんなで作りました。

江戸時代は三～四メートル四方の大きさでしたが、明治時代になると現在とほぼ同じ大きさになりました。

五月晴れの大空へ風にのって十メートル四方、重さ三百キログラムの大凧が舞いあがる姿は、まさに雄大な光景で、日本一にふさわしいものです。